

“文化”の違いを超えて、地域のコミュニティを形成するにはどうすれば良いか？

～農村地域の [外国人妻を取り巻く] コミュニティの現状から～

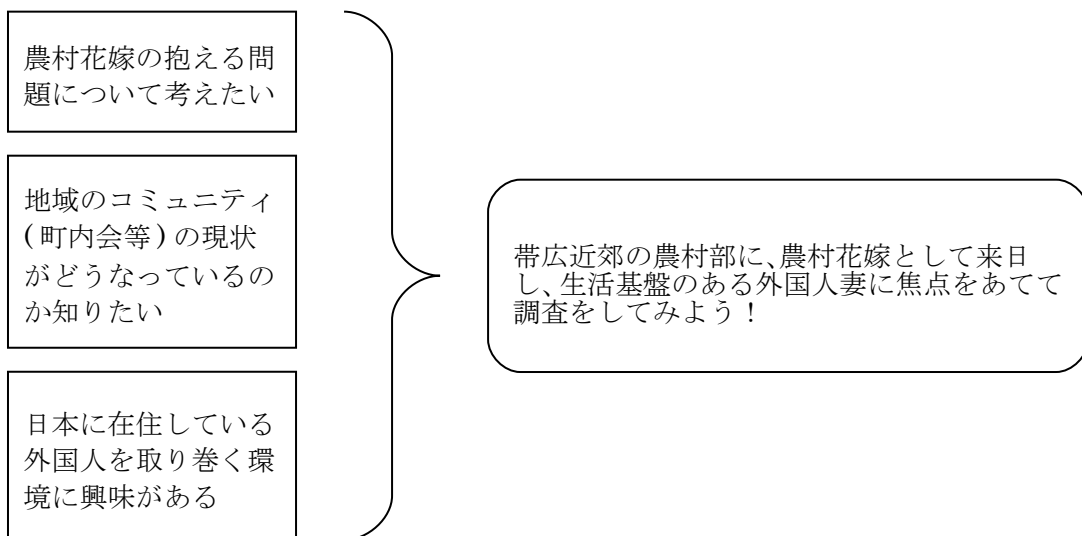
鳥本琴美／岡田朋子

【テーマ決め】

「日本に在住している外国人」「地域コミュニティ」といったキーワードに関心をもつ参加者が1グループとなり、それぞれの考えや思いを述べ合った。メンバー全員に共通していたのは、「本気で、本音でコミュニケーションが図れる十勝」を実現させたいという思いだった。

話し合いの結果、農村地域である十勝には、いわゆる「農村花嫁」として農家に嫁いだ外国人妻の存在があり、多くの問題を抱えている実情があることに注目が集まった。そこで私たちのグループは、この「農村花嫁」の問題に着目し、調査をすることにした。

テーマは、『“文化”の違いを超えて、地域のコミュニティを形成するにはどうすれば良いか？ ～農村地域の [外国人妻を取り巻く] コミュニティの現状から～』に決定。地域の現状を把握することから、理想とする十勝の実現への糸口を探る。



【考えられる問題、課題】

これまでに、見聞きした問題として、「農村花嫁」が問題を抱えながら、孤立していることが挙げられた。そこで、現在存在していると考えられる問題点、課題として以下が挙げられた。

- 「農村花嫁」が自国で身に付けてきた生活習慣等の文化が、受け入れ側の家族に理解されておらず、摩擦が起こっている。
- 相互の文化を理解できていない原因の一つは、言語の壁である。

- 家族との摩擦の他、親身になって相談に乗ってもらえる相手が見つかりにくい。または、同世代の日本人妻と触れ合う機会や場所に不足がある。
- 外国人に対し、構えてしまう、若しくは偏見がある日本人の存在がある。 等

【調査目的】

以上を踏まえ、「農村花嫁」と受け入れ家族や地域住民がよりコミュニケーションを図り、相互理解ができるようにするにはどうすればよいのかを導き出すことを目的として、調査を行うこととした。

【調査方法】

調査目的を達成するため、「農村花嫁」、「町内会若しくは自治会の会長」、「同世代の日本人妻」に対し、それぞれ質問項目を設定して聞き取り調査を行うこととした。質問項目は以下の通り。

「農村花嫁」への質問事項

- いつ頃来日したか
- 自治会とのかかわりの有無や、その内容。
- 日本に来て苦労したこと。
- 家族以外の人との付き合い（PTA など）
- 本国の家族とのつながり 等

「町内会若しくは自治会の会長」への質問事項

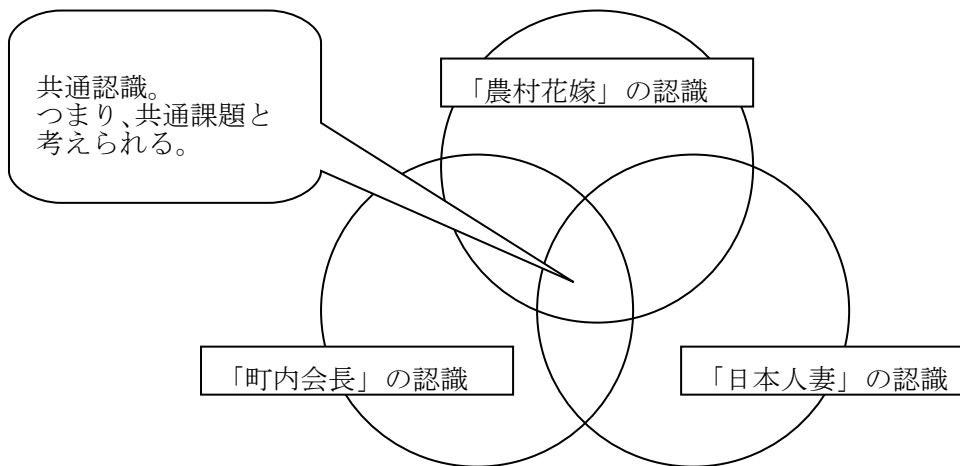
- 町内会への参加人数及び構成
- 自治会の加入率
- 行事など、活動状況
- 役員と、それ以外の人との関係（若者、外国人、子ども、老人）
- 行政（役場）に望んでいること 等

「同世代の日本人妻」への質問事項

- 家族構成、仕事の内容
- 子どもの教育
- 自治体とのかかわりの有無や、その内容。
- 近所付き合い
- 自治会に望むこと 等

【問題分析の方法】

以上のような調査により、3者の考えや思い、そして抱えている問題が明らかになると思われる。そこで、3者が共通して問題若しくは課題であると認識している部分が、3者のコミュニケーションを円滑にするための共通課題であり、特に注目して解決に当たるべき点であると思われる。



今回の調査では、この共通課題を探ることが目標となった。

【実際の調査】

「農村花嫁の問題」・・・これを調査するために方々へ当たってみたが、残念ながら農村の外国人花嫁の方とコンタクトを取ることができなかった。調査は、振出へ戻ってしまった。しかし、私たちのねらいは、「文化」の違いを超えて、地域のコミュニティを形成するにはどうすれば良いか？」ということ。あきらめずに、十勝に住む外国人のお話を聞く機会を得ようと行動した。

私たちの依頼を引き受けてくださったのは、帯広市に住むイタリア人女性（以下Aさんだった。Aさんは、イタリアで現在の夫（日本人）と出会って結婚し、お子さん二人に恵まれた。1997年、夫の仕事の関係で家族そろって来日。二人のお子さんは、現在では中学生と高校生になっている。

【Aさんについて】

来日当初、Aさんとお子さんたちは全く日本語が話せず、とても苦勞した。特にAさんは、お子さんたちが学校に通って日本語を覚えていく中、自分は一人で日中を過ごすという状況に強いストレスを感じていた。

そこでAさんは、昼間に近所の農家で農作業のアルバイトをすることにした。体力的にきつい仕事ではあったが、休憩中に日本人の主婦らと話すことによって、次第に日本語が理解できるようになっていった。

ある日、Aさんに転機が訪れた。ある国際協力系の団体から、「イタリア料理教室、イタリア語教室をやってくれないか？」との依頼があったのだ。この機会をきっかけとして、Aさんは、イタリアに興味を持っている住民がたくさんいることに気づくことができた。その後も、独自にイタリア料理やイタリア語の教室を開くようになり、「イタリア人」という自分の立場を生かした活動を定期的に行っている。現在では、「イタリア」をキーワードに、40～50人もの友人ができ、日本人の夫も驚くほどの交友関係を築いている。

【Aさんの目から見た十勝・日本】

●十勝に住む外国人

*十勝に住む外国人は、留学や研修、期限の決まっている仕事等で滞在している者が多く、親しくなったとしても、すぐに帰国してしまう。

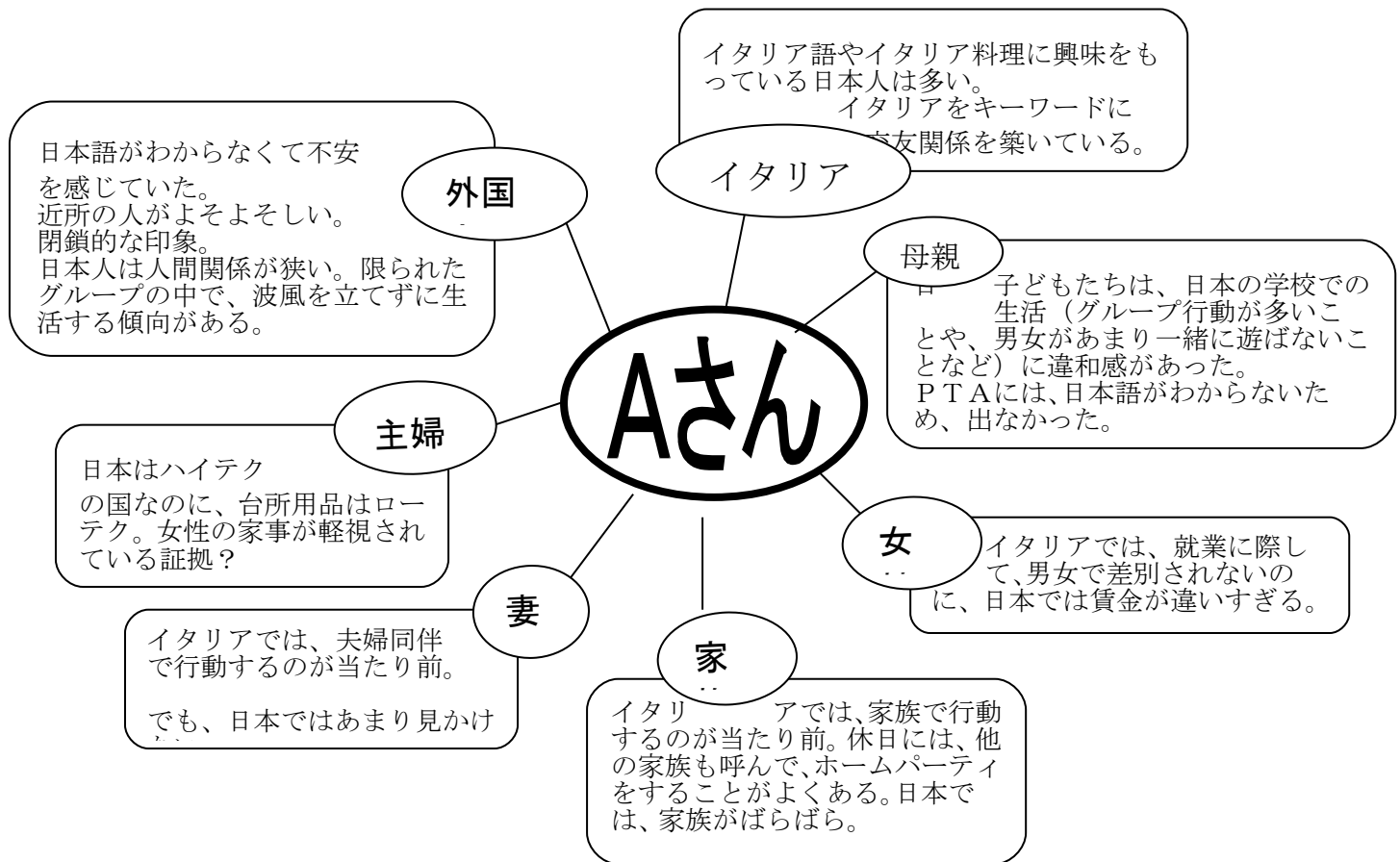
*十勝に永住している外国人もいるが、国籍も違うことから、ほとんど交流はない。

→ (Aさん) 「外国人と交流するよりも、地域の日本人との交流を大切にしたい。」

表の関係で、余白にしています。ココ。

●十勝・日本に対して感じる違和感や問題点

来日以来、Aさんが地域社会や日本に対して感じた違和感や問題点を、Aさんを修飾する言葉（イタリア人、外国人、主婦、妻、家族、女性、母親…）ごとにまとめてみた。



●外国人が住みやすい地域にするためには？

*できるだけ外国人と日本人が交流できる機会を作って欲しい。

*外国人からも動く必要を感じる。

→自分の存在感を感じられる機会があることが大切。

【調査からわかったこと】

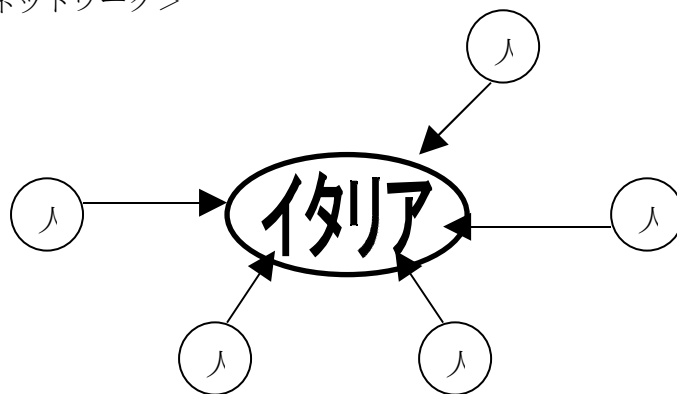
① “コミュニティ” の捉え方

私たちは、テーマが「文化」の違いを超えて、地域のコミュニティを形成するにはどう

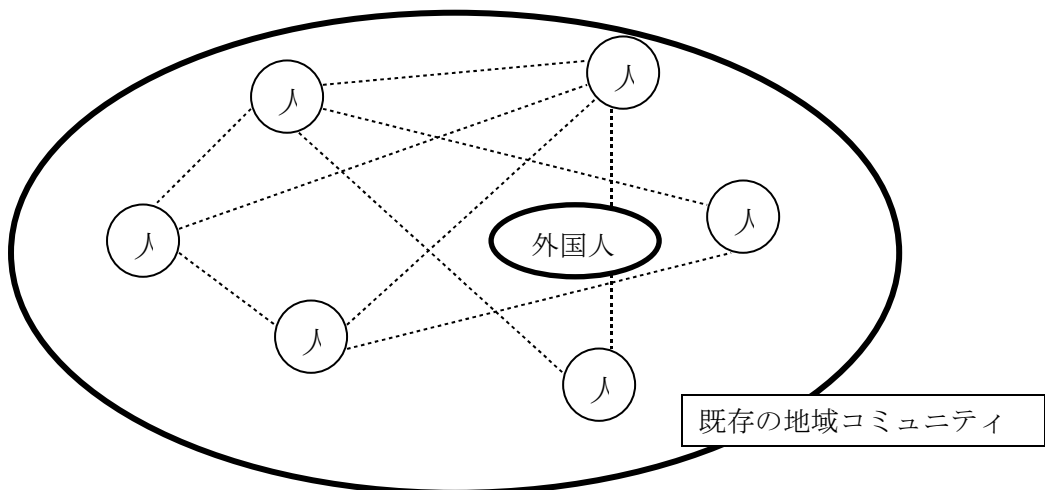
すれば良いか?」としていたことからわかるように、どこかで「コミュニティ＝地域」と考えてしまっていたように思う。しかし、今回Aさんのお話を聞いてみると、地域の人との関係は挨拶程度にとどまっており、むしろ「コミュニティ＝イタリアをキーワードとしたつながり（以下、イタリアンネットワーク）」という印象が強かった。

このイタリアンネットワークを介した関係は、確かに「“文化”の違いを超え」たものであったが、初期に想定していた「農村花嫁」の置かれている関係性とは性質が違うと考えられる。

<イタリアンネットワーク>



<農村花嫁の地域コミュニティ>



- イタリアンネットワークは、ある特定のキーワード（イタリア）に興味や関心のある人だけが集まるため、対立や問題は起こりにくい。外国人の人は、自分の存在意義を感じることができる。

- 農村花嫁の地域コミュニティでは、既に出来上がっている人間関係の中に、外国人の人が入っていくことになる。今回は調査できなかったが、Aさんとは違う点に問題点を感じている可能性は高い。

Aさんは、自分が築いたイタリアンコミュニティの中で、実にいきいきと活動をしており、とても素敵な生き方をしている方だと思った。このAさんのように、ある特定のことをキーワードにしたコミュニティが今後も増え、広がっていくことを願う。そうすれば、日本人にとっても、外国人の人にとっても、住みやすい十勝に近づくのではないだろうか。

②比較して初めて気づく事実

Aさんを修飾する言葉（イタリア人、外国人、主婦、妻、家族、女性、母親…）ごとに日本と比較してみると、様々な違いがあることに気づいた。

例えば、主婦としては、「日本はハイテクの国なのに、台所用品はローテク。これは、家事が軽視されている証拠ではないのか？」という指摘には、はっとさせられた。イタリアでは、数十年前から食器洗い機などがどの家庭にも普及し、当たり前存在になっているようだ。確かに、日本人の主婦が台所に立つ時間は長い。「これは、日本の女性の地位の低さを表しているのではないか。」とAさんは考えている。

この他にも、イタリアと比べて、日本人男性が職場に縛られる時間が長いことが、家族で過ごす時間を減少させているのではないかと、という指摘や、近所付き合いの閉鎖性などの指摘があった。

考えてみると、普段は「フツウ」であると思っていたことが、違和感をもって感じられるようになった。これは、イタリアという他の文化と比較して、初めて気づく点であった。文化に優劣はないと思うが、今の自分達が「フツウ」と思っていることを、今一度考え直す必要はあると思う。その際に、比較する基準を与えてくれるのが、地域に住む外国人の人なのかもしれない。よりよい十勝を実現させていくためには、他の文化を持った人から学ぶことが大切である。

【今後の展望】

- 今回は、「イタリア」という特定のキーワードに集まるコミュニティがあることを知ることが出来たが、他のキーワードに集まるコミュニティもあるのではないかと考えた。これからも、新しいコミュニティを発見し、ネットワークを広げていく手伝いができれば嬉しい。
- 今回は調べることができなかった「農村花嫁」のように、既存のコミュニティの中で問題を抱えている場合もあると考える。今後、機会を設けて調査したいと思う。

→様々な国籍（日本人も含む）の人の目から、多角的に、現在の十勝の問題点を見ていく。
この取り組みが、問題の本質を見抜くことにつながるのではないか。